

伊賀市 事務事業評価シート

ソフト事業

事業名	コード	名称	会計	コード	名称
事業名	466	まえがわ児童館事業	01	01	一般会計
基本施策	8	子どもを産み育てやすい環境をつくる	03	03	民生費
担当部課名		いがまち人権センター	04	04	児童福祉費
作成者氏名	山下 豊	連絡先 45-4482	05	05	児童館運営費
			101	101	児童館管理運営費
			02	02	児童館事業経費

事業の計画・内容

事業の目的	対象等(何を、誰を)	成果(どうなるのか)
地区の児童		児童が交流を通し、部落差別の解決に向けた取り組みを含めあらゆる事柄に対し自らが考え協力し合いながら自主性や幅広い仲間づくりができています。
本年度事業内容	子どもたちが自らが事業計画をたて、部落差別の解決に向けた取り組みを含めあらゆる事柄に対し仲間と共に共同で実施する力を養ったり、生涯学習の一環として、土曜日を開放し、あらゆる事柄にチャレンジできる子どもの育成を図る。	
開始年度	平成 年度	終了年度 平成 年度
根拠法令・要綱等		

投入資源

	H17	H18(予算)	H19(予算)
①投入人員			
正規職員 (人)	0.5	0.5	0.5
人件費合計(A)	3,600	3,600	3,600
②支出内訳(千円)			
事業費(B)	1,852	1,792	2,007
報償費	388	432	432
需用費	533	533	553
委託料			
その他	931	827	1,022
合計(A+B)	5,452	5,392	5,607
③財源内訳(千円)			
特定財源			
国県支出金			
地方債			
受益者負担			
その他特財			
一般財源	5,452	5,392	5,607
上記①～③に関する特記事項			

事業実績

活動指標	単位	実績値			目標値		
		H17	H18	H19	H17	H18	H19
体験スクール(対象者)	人	16	24	28			
チャレンジスクール(対象者)	人	20	30	34			
野球教室(対象者)	人	6	12	13			
体験スクール(参加率)	%	33	50	60			
チャレンジスクール(参加率)	%	40	70	75			
野球教室(参加率)	%	20	40	60			

評価指標

事業の目的の成果を測る指標	指標設定の考え方	単位	H17	H18(目標)	H19(目標)
・体験教室 チャレンジ教室・野球教室	対象者(参加者)が増加することにより、より一層の児童たちの健全育成が図れると考え指標にした。	人	42 目標 ()	66	75
			目標 ()		

事業開始時からの状況変化及び事業の改善点等

近年、子どもを取り巻く状況は、非常に厳しく、学校においてははじめや不登校の問題、また、家庭内における親子関係の問題、さらには、犯罪の低年齢化などが大きな問題となっている。子どもの人権を考えていくためには、子供同士の仲間づくりの強化、また、保護者や地域ぐるみで子どもを育てることが必要である。そのため事業を通じ子供同士は無論、地域間、世代間での交流を積極的に行っていく。

評価	必要性	4	活動を通し仲間づくりをすることにより差別を見抜き、許さない、差別と闘う感性を身につけることができ今後も継続して行う。	総合評価
	有効性	4		A
	達成度	3		
	効率性	3		